

観光社会資本の事例

テーマ	東京臨海副都心
【施設の状況写真】  <p>臨海副都心は、今や東京を代表する景観となったレインボーブリッジを挟んで都心地域の対岸に広がる。都心からも空港からもアクセスしやすい 442haの広大な開発地域には、人工砂浜や緑地が広がるほか、大規模商業施設、ホテル、アミューズメント施設などが進出し、「東京で一番訪れたいエリア」となっている。</p>	
【施設の利用写真】  <p>都心に近接したビーチ(お台場海浜公園) 市民レベルのビーチバレーの大会が開催されたり散策や砂遊びなど散策など憩いの場として都民に親しまれている。</p>	
【観光資源としての利用状況】  <p>自由の女神・レプリカ像 (日本におけるフランス年記念) レインボーブリッジをバックにした自由の女神が記念撮影のポイントとなっている。</p>	

テーマ	東京臨海副都心
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>○名称 東京臨海副都心</p> <p>○所在地 東京都港区台場、江東区青海・有明、品川区八潮</p> <p>○事業名 臨海副都心賑わい創出事業(イベント事業)</p> <p>○事業主体 東京都港湾局など</p> <p>○事業期間 まち開き(平成8年3月31日)以来</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>442ha の開発面積の約3割を占める公園・緑地等は、ヒートアイランドの緩和などへの貢献とともに、貴重な水辺空間と相俟って、快適な都市環境を創り出している。</p> <p>海と橋とが作る良好な景観は広く知られ、また、広大なオープンスペースが、年間50件を超えるイベントの舞台となるなどの結果、年間4,090万人(平成16年)の来訪者で賑わい、地域への経済効果が得られている。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>東京都港湾局 http://www.kouwan.metro.tokyo.jp</p> <p>臨海副都心まちづくり協議会 http://www.seaside-tokyo.gr.jp</p>	

